

～あかるく なかよく たくましく～

○様々なご協力をいただき、本当にありがとうございました

本日で2学期が終わります。今年度は、新型コロナウイルスの拡大により、様々なことが大きく変化しました。学部集会や運動会、きらきらコンサート、宿泊学習など、これまで当たり前に取り組んでいた子供同士が関わり合ったり、日ごろの学習の成果を発揮したり、また、子供たちが自分自身の成長が実感できる場を設定することが難しくなりました。生活の中では、「時間制」や「人数制限」、「入場制限」など、様々な制限が増え、日々の生活が窮屈になってきました。本校でも、低学年と高学年の子供たちの登下校場所を分け、自家用車での送迎をお願いしたり、参観日には、各家庭一名での参観をお願いしたりするなど、様々なことをお願いする場面が多くなりました。保護者の皆様の御協力に感謝致します。

3学期からは、学校の事情により、水曜日の下校時刻が短くなり、より一層、保護者の皆様の負担を増やすこととなり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。私たちは、子供たち一人一人と誠実に向き合い、子供たちが学び、育つことのできる授業をつくっていただけるように全力を尽くしていきます。

○本当に伝えたいこと、心の声を聴くこと

先日、ある男の子（A君）と給食を食べる機会がありました。A君は、「～したい」や「〇〇は嫌だ」といった気持ちを、大人の手を引いたり、自分の手を合わせて大人を見つめたり、また、「あああ。」等、声を出すことで表現します。最近は、トイレで排せつができるようになってきていました。

その日の給食のメニューは、A君が好きな魚の竜田揚げでした。しばらく、黙々と食べていたA君でしたが、急に椅子から立ち上がりました。私は、「お腹いっぱいなのかな」と思い、「A君、ごちそうさますか？」と尋ね、残飯を入れるバケツを差し出しました。すると、A君は、そのバケツを押し出し、立ちながら竜田揚げを食べ続けていました。次に、私は換気のために開けている窓からの風が寒いのかと思い、A君の背中に触れたり、さすったりして温めてみました。A君は、一度は、座りましたが、再度、立ち上がり、私に抱き付きました。

満腹でもない、寒さでもない・・・「何だろう？」と思い、A君の様子を少し見守っていると、A君は、私の手を握り、ランチルームの外に向かって引っ張りました。私は、「もしかしたら、おしっこをしたいのかもしれないな」と思い、「A君、トイレに行きたいの？」と話し掛け、一緒にトイレに向かいました。A君は、トイレを懸命に我慢するかのようになり、私の腰にしがみつこうようにして歩き、無事、トイレで排せつを済ませることができました。ランチルームに戻るとき、A君は、私と視線を合わせてにっこりとほほ笑み掛けてくれました。

子供たちは一人一人伝えたいことをもっています。大人は、ついつい目に見える行動に対応しがちです。A君の関わりを通して、子供の本当に伝えたいこと、心の声を聴くことの大切さを改めて学びました。（文責：小学部主事 塚田）